

令和7年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (1月29日実施)	総合評価（3月31日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①すべての生徒のわかりやすさに配慮した授業改善を行い、生徒一人ひとりに応じた進路等の目標実現に応える、社会に開かれたカリキュラムの実現を目指す。</p> <p>②各教科・科目において、積極的に探究的な学びに取り組み、「総合的な探究の時間」の充実を図り、積み重ねることによって主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。</p>	<p>①生徒の希望進路の実現に向けて研究授業の実施、「指導と評価の効率的な運用」等、組織的な授業改善に取り組む。</p> <p>②「総合的な探究の時間」における学習活動を充実させ、自ら課題を発見し解決する能力の育成につなげる。</p> <p>③インクルーシブ教育の理念を踏まえた授業改善を一層推進し、ICTの効果的な活用にも努める。</p>	<p>①教員相互の授業見学や研究授業の機会を増やし、全員が他の教員の授業を参観し、教科会等で協議をすることで各々の授業スキルを高める。</p> <p>②「総合的な探究の時間」における学習活動を見直し、課題解決能力の育成につながる活動を実践する。</p> <p>③大型電子黒板の効果的な活用法を職員間で共有できるようデータベース化に取り組み、併せてユニバーサルデザイン化を推進する。</p>	<p>①授業見学の機会を効果的に設定することで、職員全員の授業参観に結び付いたか。</p> <p>①研究授業を実施できたか。</p> <p>①教科会等で研究協議を行い、より良い授業への改善に繋がったか。</p> <p>②「総合的な探究の時間」に課題解決能力の育成を目指す学習活動を組み込めたか。</p> <p>③大型電子黒板の活用に関わる取組を実践できたか。</p>	<p>①すべての生徒にとってわかりやすい授業を提供し、生徒一人ひとりの進路や目標の実現に応えることを目指して、授業改善に取り組むことができた。また、年間2回の授業見学、研究協議を実施することができた。自教科および他教科の授業を見学した教員が全体の86.7%を占めた。</p> <p>②各教科・科目において、毎回の授業内容を自ら課題を発見し解決する能力の育成につながるような授業づくりに取り組むことができた。また、ユニバーサルデザイン化や大型電子黒板をはじめとしたICT機器の効果的な活用に努めることができた。</p>	<p>①2回の授業見学を終え、研究協議では活発な意見交換が行われた。その中では、一人一台端末の利用度の低さや、使いにくさ、また、教科横断的な授業づくりの難しさなどが話題となっていたため、次年度に向けた改善の方策を打ち出したい。</p> <p>②各教科で、また教科を越えて授業改善に向けた研究協議を活発化させる。</p> <p>③職員が大型電子黒板を自在に活用できるよう活用方法の周知を図る。</p> <p>④ユニバーサルデザイン化をさらに推進する。</p> <p>⑤一人一台端末を情報Iの授業内で積極的に活用する方向性を打ち出す。</p>	<p>①継続して行われてきた授業改善の成果を感じる。今後も引き続き、学校全体としての授業改善の取組を継続していただきたい。</p> <p>②キャリアの授業においてはユニバーサルデザインのフォントで統一するなど、生徒の特性を考慮した授業が実施されている。ユニバーサルデザインを考慮した授業を、学校全体に広げてほしい。</p>	<p>①昨年度から継続し、授業を互見することで授業改善につなげる取組を行った。アンケート等からの現状を分析するに、ICT教材の活用や成績処理等のスキルに差があることが読み取れた。全体の底上げが喫緊の課題である。</p> <p>②各教科・科目で「教科横断的な学び」を採り入れた授業改善に取り組んだ。</p> <p>③大型電子黒板の導入に伴い、各教科の特性に応じ活用を図った。</p>	<p>①授業互見の取組に加え、テーマを定めて研究授業を実施し、研究協議の場を同日に設定する。</p> <p>①研究授業を柱に教科会を実施し、協議の機会を増やす。</p> <p>①職員室内での授業についての情報交換を活発にし、職員全員で授業改善に取り組む。</p> <p>②大型電子黒板の効果的な使い方を職員間で共有できるよう、研修の実施やデータベース化等に取り組む。</p> <p>③ICT教材の活用、ユニバーサルデザイン化をさらに推進する。</p>
2 生徒指導 ・支援	<p>①広く社会に貢献できる、規律ある生活習慣を身に付けた人材の育成に向けて、丁寧な生徒指導を行う。</p> <p>②生徒が主体的に学校行事や部活動に取り組むよう支援し、すべての生徒が活躍できるようにする。</p>	<p>①生徒一人ひとりの課題やニーズに合わせた支援体制、外部機関との連携を含めたチームによる相談体制の充実を図る。社会人として必要とされる基本的な生活習慣・人との関わり方を卒業までに身に付けるよう丁寧な指導を行う。</p> <p>②特別活動等で、生徒が主体的に活動し達成感等が得られるよう支援し、課題解決能力の向上を図ることによって、生徒の将来のキャリアに繋げる。</p>	<p>①教育相談連絡会で生徒の個に応じた支援を考えSC・SSWや外部機関に繋ぐとともに、その後の情報共有を徹底することで必要な支援を行う。</p> <p>①登下校指導や遅刻指導、挨拶運動等の取組を通してルールやマナーを身につけさせる。</p> <p>②部活動や新入生歓迎会、挨拶運動、体育祭、翔矢祭、スポーツ大会等の各行事において、生徒会を中心に生徒が主体的に活躍できるよう支援する。</p>	<p>①担任、授業担当を含め、学年団、全職員がケースごとに支援策に応じた対応ができたか。</p> <p>①支援が、生徒の課題解決につながったか。</p> <p>①生徒自身がルールやマナーを守る生活習慣・言動を身に付けたと感じたか。</p> <p>②生徒会行事を通して、達成感を得られた生徒が90%以上となったか。</p>	<p>①教育相談連絡会で生徒の抱えている課題を情報共有した。支援策を検討し、SC、SSW、医療等につなげることができた。かながわ子どもサポートドックの取組も全体に周知、実行し、生徒理解に努めた。</p> <p>①交通ルール、マナー違反について、昨年より近隣の方よりお叱りを受ける回数が減った。また、定期的に登下校指導を行い、必要があれば、臨時でも対応した。</p> <p>②昨年に引き続き、体育祭で着用するTシャツのデザインを美術科と普通科の生徒が協力して作製した。体育祭、翔矢祭後のアンケートでは、生徒の95%以上が「楽しめた」「充実感を持った」と回答。有志による文化祭準備委員の生徒が、1年間かけて話し合いを持ちより良い行事運営を目指してきた。</p>	<p>①支援が必要な生徒、困っている生徒が多く見受けられるので、今後も生徒理解に努め、早期対応を心がけていきたい。</p> <p>①一部の生徒は交通ルールやマナーが身につけていないので、今後も継続的に指導していきたい。</p> <p>②熱中症対策としてアイスメーカーを設置し、有効に活用している。部室回りの整理整頓、施錠の確認をし、放課後の活動が安全に行われるようにした。</p> <p>③生徒会役員生徒は、生徒総会での簡単な手話での挨拶、また学校説明会で学校生活・行事の説明など人前で発表する機会を持った。</p> <p>④生徒主体で概ね運営できるようになってきているが、教員のサポートと共に、生徒間でルールなどが守れるように見守りがまだまだ必要である。</p>	<p>①交通ルールの順守について社会性が育っていないことが影響していると考え。他校種・学年交流などで社会性を育む取組が必要ではないか。</p> <p>①学生にとってイベントは重要、より多くの生徒が楽しめるような工夫と、より主体的に取り組むことができる環境整備を行ってほしい。</p> <p>②生徒の自主的な活動を促すアイデアとして、イベントごとの注意点等のチェックリスト作成し、周知するなどがある。</p>	<p>①R8.4月、自転車青切符導入に伴い、更に厳しく指導を徹底したい。社会性を育む取組は今後検討する。</p> <p>②体育祭、翔矢祭、スポーツ大会等の各行事に生徒が主体的に関われるよう、環境づくりに取り組み、多くの生徒に充実感を感じさせることができた。</p> <p>③生徒が主体的に学校行事や部活動に取り組むよう環境づくりを進め、課題解決能力の向上を図る。</p>	

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (1月29日実施)	総合評価(3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①「ちょっと背伸びの進路実現」を目指した将来の自己実現に向けた指導を行う。 ②生徒の希望進路の実現のため、進路支援体制の充実を図り、きめ細かな進路支援を行う。	①キャリア教育実践プログラムをブラッシュアップし、生徒の個性や進路意識の段階に応じたキャリア教育を推進する。 ②インクルーシブな視点で生徒一人ひとりの5年後10年後を見据え、個別最適な進路支援を行えるよう進路支援体制の充実を図る。	①「総合的な探究の時間」を担任・副担任で協働して行う体制を整え学習効果を上げる。 ①個々の生徒に応じた到達度テストの活用、事前学習や事後指導となるよう改善する。 ②説明会・面談等の実施時期、事前・事後指導を適切に設定する。 ②卒業生を講師とする説明会等、より効果的な説明会のスタイルを工夫し、実施する。	①「総合的な探究の時間」を担任副担任が協働して実施できたか。 ①到達度テストの活用を個々の生徒に応じたものに改善できたか。 ②説明会・面談等の時期及び事前・事後指導を効果的に実施できたか。 ②就職希望者が全員内定して卒業すること、進路未決定者が10人以内を達成できたか。	①「総合的な探究の時間」を担任、副担任、支援担任が協働して実施する機会が増えた。 ①達成度テストについては、振り返り学習を行ったり保護者面談の資料として活用したりして、個々の生徒に応じた活用に努めた。 ②説明会については事前指導に力を入れて生徒が主体的に参加できるように努めた。面談については事前のアンケート調査なども活用し効果が上がるように努めた。 ②就職希望者は、学校推薦を希望した生徒が内定を得ている。	①到達度テストの実施そのものについて、その有効性をグループ内で検討し、継続使用の結論を出した。利用促進を図る。 ②生徒の進路意識は個人差が大きく一斉指導が困難であるが、進路意識に差があっても有効な一斉指導の方法を研究する必要がある。 ②特別募集の生徒の活動について、支援教育担当者と連携を取りながら支援する。進学については、20名が共通テストを受験、一般入試に向けて支援する。	①若い世代ほど就職を諦めやすい。厳しく、あたたかく、色々やり方はあるが、安心感が次への意欲につながる。 ②周りに合わせて決定する生徒・学生が多い印象がある。自分の意志で決断できているのか。進路を諦めないのは、自分を諦めないことであることと伝えることが重要である。	①今後は「総合的な探究の時間」の活動と教科、特別活動の連携を探りたい。 ②総合型選抜への出願者の増加は進路意識の高まりも影響していると考えられる。2学年までの指導の成果の現れである。 ②就職希望者は全員内定した。進路目標を持たない未決定者は9名である。進学については総合型選抜や推薦入試などで一定の合格者を出した。	①「総合的な探究の時間」と他の活動の連携について研修する機会を設ける。 ②「ちょっと背伸びの進路指導」を意識し、生徒の進路意識が高まるような指導を心がける。今年度の生徒が不合格になってもくじけずに挑戦し続け、合格した例を伝えることで、生徒の意識を高めた。
4	地域等との協働	①地域の期待に応えながら、地域の担い手として成長できるような人材の育成を目指す。 ②部活動・生徒会活動や、美術科の活動を発信し、地域との協働を図るとともに学校の魅力を発信する。	①積極的に地域の活動に参加し、生徒が様々な経験をすることで、将来地域を支える人材を育成する。 ②部活動、生徒会、美術科等の活動において地域と協働した活動の場を増やすとともに、学校の魅力を積極的に発信する。	①地域の町内会や近隣小学校等の行事に部活動等で参加する。 ②美術科の作品の校外展示、アートスクール等の説明会で学校の魅力を発信する。 ②陶芸教室の実施等、地域との協働活動を推進する。 ②美術科の造形力を取り入れた魅力的なホームページなどでの学校の情報発信を行う。	①地域にリサーチを行い、期待に応えられたか。 ②前年度より多くの校外展示を実施できたか。 ②陶芸教室参加者の期待に応えられたか。 ②ホームページの内容を充実させ、生徒の活動や学校の魅力をタイムリーに発信できたか。	①地域と連携して実施したイベントは好評であった。地域へのリサーチについては、現在、進行中である。 ②近隣カフェでの美術科などの作品展示は作品の入れ替え回数を倍に増やした。また、小学校で展示してもらうなど、新たな展示場所を増やした。 ②ホームページの更新回数を増やした。また、アニメ漫画研究部の生徒にバナーを作成して貰うなど、ホームページの充実を図った。	①地域へのリサーチ結果とニーズに応える業務の関係を見える化し、整理をしたい。 ②作品展示の回数や新しい展示場所の増加について、バランスを見ながら持続可能で効果的な業務にしたい。 ②陶芸教室は、年度内にもう一度やって欲しいという声もあった。 ②ホームページは担当者を増やすことを検討し、よりよい情報発信を試みたい。	①地域も協力姿勢の強さに感心している。地域との関わりを通じて生徒の社会性は育まれ、学びにつながる。今後も充実した取組を期待したい。 ②地域貢献が授業と共に、生徒の成長を促す両輪となることを期待している。	①陶芸教室、地域アンケート、小学校との作品交換展示を行ったことが成果であった。陶芸教室の回数を増やす、美術科の作品を校外展示することをカリキュラムに落とし込む等が課題である。 ②校外展示やホームページなどを引き続き工夫することを検討する。	①陶芸教室の回数を増やすことや小学校等に校外展示について調整していく。美術科の作品展示を授業課題に落とし込んでいくことを検討する。 ②ホームページ担当者が工夫して作業してくれた部分を複数人でフォローする体制を検討したい。
5	学校管理 学校運営	①「共に学び共に育つ」共生社会の実現を目指す。 ②安全・安心で信頼できる学校づくりを進める。	①職員全員の意識を高め、個々の生徒の状況を多角的に捉え、人権に配慮した対応を適切に行う。 ②より良い教育の実現のため、業務の効率化を進めるとともに、不祥事ゼロ達成に取り組む。具体的な非常事態をイメージし防災体制の強化を図る。また、地域と連携した取組を推進する。	①情報共有会議で職員全員に生徒の状況を周知する。 ①生徒の実態に即したテーマで職員の人権研修を行う。 ②セキュリティを確保しながら、更にTeamsを有効活用する。 ②定期的な研修を継続し、不祥事ゼロを達成する。 ②地域との連携の在り方を学校運営協議会で検討し、実効性のある防災体制に近づける。	①研修の振り返り等により、職員が人権に配慮した教育活動の在り方を再確認できたか。 ②職員間の迅速な情報共有により、勤務形態の多様化に対応できたか。 ②事故防止研修を適切な時期に行い、不祥事ゼロを達成できたか。 ②防災体制について学校運営協議会で協議し災害時の体制について情報を共有できたか。	①人権研修の日程を見直し、多くの教員が参加できた。今年度はアサーティブをテーマに研修を持った。アンケート結果では、100%理解できた、日常生活に活かそうという回答を得た。 ②Teamsの掲示板機能の欠席等連絡機能の使用を開始した。 ②定期テストや成績処理に係る事故防止については、学習支援グループを中心に取り組んでいる。 ②防災体制については第一回学校運営協議会で本校の避難所としての役割を確認した。また、地域の防災訓練において本校武道場との通信状況の確認を行った。	①今後も、職場で生徒や保護者、教職員について日常で活かせるような研修を続けていく。 ②Teamsの掲示板機能についてセキュリティを確保しながら、さらに有効活用したい。 ②定期的な研修を継続して行い、不祥事ゼロを達成する。 ②引き続き、学校運営協議会で防災における地域との連携の在り方を検討し、実効性のある防災体制に近づける。	①効果的な研修は職場において重要な役割を果たす。継続的な実施が望まれる。 ②業務の効率化は、事故防止にもつながる。効果的に実施していただきたい。 ②地域と連携して実効性のある防災体制の構築に取り組んでいただきたい。	①今回の「アサーティブ」というテーマは多くの先生方に共感を得ることができ、多くの先生方に理解していただけただけだ。 ②Teamsの活用により業務の効率化が図れた。 ②次年度より導入する学校・家庭連絡システムについても有効に活用したい。 ②事故防止研修会を毎月実施し、事故防止に努めた。 ②防災マニュアルの見直しを行った。	①今後もニーズの高いテーマを取り上げ、教育現場に生かせるような研修を実施していく。 ②引き続きTeamsの活用を進めることで迅速な情報共有を可能にし、勤務形態の多様化に対応する。 ②学校・家庭連絡システムを活用し、業務の効率化を図る。 ②事故防止研修を適切な時期に行い、不祥事ゼロを達成する。 ②地域防災と関わるうえで、県立高校の役割を踏まえた防災体制を整える。